

生活科学部基礎科目

生活科学部学部基礎学科科目一覧

科目コード	2008年度以降入学生	
20000	生活科学基礎演習	
20001	発達心理学	
20002	人間関係論	
20003	生命倫理	
20004	人間と哲学	
20005	人間と精神保健	
20006	人権と教育	
20007	対人援助の基礎知識	
20008	キリスト教福祉	
20009	福祉文化論	
20010	生活経営論	
20011	生活経済学	
20012	生活と国際経済	
20013	社会学	
20014	法学	
20015	生活と政治	
20016	現代社会思想	
20017	高齢者生活論	
20018	女性学	
20019	現代家族論	
20020	環境生態学	
20021	生活と自然環境	

20000 生活科学基礎演習 a

(Basic Seminar on Life Sciences a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 佐々木 徹

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

大学での学びに喜びを見出すことができる。正式にレポートを書くことができる。

授業計画

第1回・大学で学ぶ際の心得

第2回・大学の歴史

第3回・講義の理解の仕方

第4回・役に立つノートの取り方

第5回・図書館の利用の仕方

第6回・レポートの作成 (1・テーマを選ぶ)

第7回・レポートの作成 (2・考察を重ねる (a))

第8回・レポートの作成 (3・考察を重ねる (b))

第9回・レポートの作成 (4・考察を重ねる (c))

第10回・レポートの作成 (5・文章を書く (a))

第11回・レポートの作成 (6・文章を書く (b))

第12回・レポートの作成 (7・文章を書く (c))

第13回・発表と質疑応答 (1)

第14回・発表と質疑応答 (2)

第15回・発表と質疑応答 (3)、および総まとめ

授業概略

大学での学びにおいては、高校までの学びとは異なる新しい局面が開けてきます。関心や興味を持てるテーマを自分で見つけ、それを自分の責任において探究し、その成果を達意の文章や発表を通して、他者に伝達するすべを体得せねばなりません。積極的に、そして自分を見失わずに、真実の海に漕ぎ出してゆく姿勢が大切です。生涯、生活の中にあっても考え続けることのできるテーマを若き日に見つけた人は、真に幸福な人であると申せましょう。

以上のことを念頭に置きつつ、この授業では、大学の講義の聴き方、ノートの取り方、さらにはレポートの作成法、発表の仕方などを学びます。文献の見つけ方、文献の読解と整理、文章の書き方を練習します。

教科書

随時プリントを配布する。

参考書

参考書は、適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

レポートの充実度、授業への意欲などを総合的に評価する。

出席重視→出欠は毎回確認する。

詳細は、授業時に述べる。

事前準備学習

様々なことに関心を持ち、書物や新聞に慣れ親しむこと。日記を書いたり、読んだ本の中に良い文章があれば抜き書きしたりして、自ら文章力を鍛える習慣を持つこと。

備考

マナーを守って、誠実に取り組むこと。

20000 生活科学基礎演習 b

(Basic Seminar on Life Sciences b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 山中 俊克

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

大学での学びに必要な基礎的な知識と技術を活用することができる。

授業計画

【第1回】授業のガイダンス

【第2回】大学での講義の受け方

【第3回】大学での情報収集

【第4回】レポートの作成方法 1

【第5回】レポートの作成方法 2

【第6回】個人発表の説明と個別指導 (その1)

【第7回】レポートに関する個人発表 1

【第8回】レポートに関する個人発表 2

【第9回】個人発表の説明と個別指導 (その2)

【第10回】レポートに関する個人発表 1

【第11回】レポートに関する個人発表 2

【第12回】個人発表の説明と個別指導 (その3)

【第13回】レポートに関する個人発表 1

【第14回】レポートに関する個人発表 2

【第15回】レポート作成方法に関する総括

授業概略

大学での学びはこれまでの高校までの学びとは異なる新たな学習姿勢が求められるため、大学で授業を受ける上での心構えについて説明します。また、大学の授業ではレポートの作成やクラスの中での発表を行う機会が多いので、それらに関する基礎的な知識や技術とともに方法について解説します。本授業において実際にレポートを書いたり、発表を行うことにより実践的な学びにつなげます。

教科書

田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房、2003年。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

レポートの完成度、授業への参加態度、出席状況により総合評価します。

事前準備学習

レポートを作成するときのテーマは社会のできごとや関心、問題などから選ぶため、毎日ニュースや新聞を見るように心がけて下さい。

20000 生活科学基礎演習 c

(Basic Seminar on Life Sciences c)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 有澤 正樹

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

大学における“学び”を理解し、与えられた、もしくは自ら設定したテーマに関して調査し、客観的かつ論理的な考察を行い、レポートを作成することができる。

授業計画

【第1回】ガイダンス (大学での学び方)

【第2回】文章の書き方とレポート作成の手順

【第3回】テーマの決定

【第4回】文献・資料の収集と整理 1

【第5回】文献・資料の収集と整理 2

【第6回】話題の決定 1

【第7回】話題の決定 2

【第8回】構成の決定 1

【第9回】構成の決定 2

【第10回】「はじめに」を書く 1

【第11回】「はじめに」を書く 2

【第12回】レポートの作成 1

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

- 【第13回】レポートの作成2
- 【第14回】レポートの作成3
- 【第15回】「おわりに」を書く

授業概略

大学での講義や演習では、レポートを作成したり、人前で発表したりする機会が多々ある。しかしながら、近年の学生の中には、レポートが感想文になっていたり、E-Mailのように一文一文が勝手気ままに改行（段落づけ）されていたりと、レポートとは思えない文書を書くものが散見される。

この演習では、レポートを作成するにあたっての“物の考え方”（レポートのテーマについて、どのようにアプローチしていくか）や資料の集め方、分析・考察など、具体的にどうやっていけばよいのかを学ぶために、社会問題などについて実際にレポートを作成しながら考えていく。また、レポートを書くときの文体や構成を始めとする、基本的な文章の書き方についても再確認する。

資料の要旨をまとめ、自分の考えを実際に文章にする作業を通じて、一人よがりではない、読んで分かってもらえるレポートの書き方を学習する。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

出席状況およびレポート作成過程における随時添削、完成レポート。

事前準備学習

この演習では、現代社会の問題や関心の向けられているテーマ（食物健康科学科の学生であれば“食”に関する事など）についてのレポート作成を行うので、新聞やテレビニュースなどを見て世の中の動向を掴んでおくこと。また、レポート中の文章は新聞記事のような客観的で論理的なものとなるので、作文が不得意のものは新聞記事の表現に慣れておくこと。

20000 生活科学基礎演習 d

(Basic Seminar on Life Sciences d)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 扇澤 美千子

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

- ・レポート作成の基礎的知識や技術について学ぶ
- ・プレゼンテーションに必要な発信力を身につける

授業計画

1. レポート作成の手順
2. 読んでもらえるレポート
3. レポート提出の注意点
4. 書き方の約束
5. レポートのレイアウト
6. 文献・資料の検索と整理
7. よりよい論文の条件
8. 論文の基本構成
9. ねじれ文の排除
10. 良い論文の3原則
11. プレゼンテーションの方法
12. 発表の基本
13. 発表資料の作成について
14. プレゼンテーションの実施
15. まとめ

授業概略

基礎演習では大学で学んでいくときに必須となるレポート

作成の基礎的知識や技術について学んでいきます。書くこと・読むこと・調べること・考えること・まとめること・発表することなどの課題を通して着実に力を養成していきます。各自が授業へ積極的に参加すること、自分のテーマを探求することの面白さに気付くことができれば大学での学びは格段におもしろさを増していきます。

教科書

『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康著 講談社現代新書

参考書

必要に応じて指示する

成績評価の方法・基準

レポート、プレゼンテーション、出席、試験など総合的に評価する

事前準備学習

必要に応じて指示する

20000 生活科学基礎演習 e

(Basic Seminar on Life Sciences e)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

新入生が、大学の授業その他についてできるだけスムーズに溶け込めるように、必要な情報を集め、方法を学ぶ機会を提供します。いわゆる、大学生生活入門講座です。

授業計画

以下の予定で授業を進めますが、順番等は変更されることがあります。

- 第1回 自己理解と他者理解 紹介の仕方、受け止め方
- 第2回 大学4年間の目標とスケジュールの設定
- 第3回 授業の受け方 学習の仕方Ⅰ（ノート 教科書 問題集）
- 第4回 授業の受け方 学習の仕方Ⅱ（レポートと論文の書き方）
- 第5回 情報の集め方 図書館の利用方法
- 第6回 試験の傾向と対策 資格試験の攻略法
- 第7回 パソコン対策 プライントタッチの習得法 その他
- 第8回 日本語対策Ⅰ（話し言葉と書き言葉）
- 第9回 日本語対策Ⅱ（きをうえたおとこ 白文による文章力チェック）
- 第10回 日本語対策Ⅲ（主語と述語 句読点）
- 第11回 日本語対策Ⅳ（ねじれ文と接続語）
- 第12回 日本語対策Ⅴ（敬語とビジネス）
- 第13回 情報交換
- 第14回 総合（大学 友人と自己 学習 問題の把握と対策）
- 第15回 まとめ

授業概略

大学の一年次、この時期に自分の現在位置を確認しておきましょう。この演習では、学部からの要請で、特に「言葉と文章」の力をつけることを目的とし、上達のコツと自己訓練の方法を教えます。自分の書いたり、話したりしている日本語については、自分で点検する姿勢のある無しで、その人の日本語のレベルが変わってきます。次の課題は、自分と他者あるいは大学、ひいては社会との関係について、考える機会をつくりますので、自分を見つめ直してください。その上で、4年間の大学生活を充実したものにするための情報とノウハウを集めることにしましょう。1年生の時に、良質な情報を獲得できるかどうか、明確な目標とスケジュールを立てることが出来るか否か、それによ

て、君の大学生活が、そして人生が大きな影響を受けます。大学生活を大いに楽しみ、かつご自分を鍛え直す良い機会としてください。

教科書

教科書は使用しません。手作りのプリント、レジュメを配布します。

参考書

特に指定しませんが、授業時に資格試験対策本等を紹介し

成績評価の方法・基準

毎回課題が与えられますので、それを評価して成績をつけます。

事前準備学習

事前学習は特に必要ありませんが、事後に学習することは山ほどあります。演習のそのつどの課題をクリアしていく強い気持ちが必要です。

備考

私は、今年度、この演習については、eとfそれぞれ同内容の二クラスを担当します。

20000 生活科学基礎演習 f

(Basic Seminar on Life Sciences f)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

新入生が、大学の授業その他についてできるだけスムーズに受け入れるように、必要な情報を集め、方法を学ぶ機会を提供します。いわゆる、大学生活入門講座です。

授業計画

以下の予定で授業を進めますが、順番等は変更されることがあります。

- 第1回 自己理解と他者理解 紹介の仕方、受け止め方
- 第2回 大学4年間の目標とスケジュールの設定
- 第3回 授業の受け方 学習の仕方Ⅰ（ノート 教科書 問題集）
- 第4回 授業の受け方 学習の仕方Ⅱ（レポートと論文の書き方）
- 第5回 情報の集め方 図書館の利用方法
- 第6回 試験の傾向と対策 資格試験の攻略法
- 第7回 パソコン対策 プライントタッチの習得法 その他
- 第8回 日本語対策Ⅰ（話し言葉と書き言葉）
- 第9回 日本語対策Ⅱ（きをうえたおとこ 白文による文章力チェック）
- 第10回 日本語対策Ⅲ（主語と述語 句読点）
- 第11回 日本語対策Ⅳ（ねじれ文と接続語）
- 第12回 日本語対策Ⅴ（敬語とビジネス）
- 第13回 情報交換
- 第14回 総合（大学 友人と自己 学習 問題の把握と対策）
- 第15回 まとめ

授業概略

大学の1年次、この時期に自分の現在位置を確認しておきましょう。この演習では、学部からの要請で、特に「言葉と文章」の力をつけることを目的とし、上達のコツと自己訓練の方法を教えます。自分の書いたり、話したりしている日本語については、自分で点検する姿勢のある無しで、その人の日本語のレベルが変わってきます。次の課題は、自分と他者、あるいは大学、ひいては社会との関係について、考える機会をつくりますので、自分を見つめ直すしてください。その上で、4年間の大学生活を充実したものにするための情報とノウハウを集めることにしましょう。1

年生の時に、良質な情報を獲得できるかどうか、明確な目標とスケジュールを立てることが出来るか否か、それによって、君の大学生活が、そして人生が大きな影響を受けます。大学生活を大いに楽しみ、かつご自分を鍛え直す良い機会としてください。

教科書

教科書は使用しません。手作りのプリント、レジュメを配布します。

参考書

特に指定しませんが、授業時に資格試験対策本等を紹介し

成績評価の方法・基準

毎回課題が与えられますので、それを評価して成績をつけます。

事前準備学習

事前学習は特に必要ありませんが、事後に学習することは山ほどあります。演習のそのつどの課題をクリアしていく強い気持ちが必要です。

備考

私は、今年度、この演習については、eとfそれぞれ同内容の二クラスを担当します。

20000 生活科学基礎演習 g

(Basic Seminar on Life Sciences g)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 田口 尚史

履修可能学科

W F

関連資格

到達目標

この演習では、レポート作成法を習得することを目標とする。レポートを段階的に作成していくなかで、これから4年間学んでいくにあたって必要となる論理的な思考力などの基礎力も養う。

授業計画

- 第1回 レポートのテーマ(主題)はどのように決めるのか
- 第2回 レポート作成にあたっての基本事項(1)
- 第3回 レポート作成にあたっての基本事項(2)
- 第4回 レポート作成にあたっての基本事項(3)
- 第5回 題目・主題文の個別指導
- 第6回 題目・主題文の提出
- 第7回 目次・参考文献の個別指導
- 第8回 目次・参考文献の提出
- 第9回 レポートの中間報告(序論)と個別指導
- 第10回 レポートの序論の提出
- 第11回 レポートの中間報告(本論)と個別指導(1)
- 第12回 レポートの中間報告(本論)と個別指導(2)
- 第13回 レポートの本論の提出
- 第14回 レポートの最終報告(結論)と個別指導
- 第15回 レポートの結論の提出

授業概略

この授業はレポート作成法の入門講座で、少人数のゼミ形式で行なう。演習参加者は与えられた課題に対して、図書館やインターネットを利用して資料を収集し、その実態を把握するとともに、その問題点についても考察して、その調査・分析結果を発表する。最終的にはレポートを作成して提出します。レポート作成の過程で、図書館の利用法、文献の探し方、調査・分析の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などについてサポートする。

教科書

授業で使用する資料は全て配布する。

参考書

参考書などの文献の指示や案内は、授業の中で適宜行なう。

成績評価の方法・基準

完成レポートの素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。

事前準備学習

なし

備考

レポートの作成は段階的に進めていくので、積極的に授業に参加することが期待される。

20001 発達心理学

(Developmental Psychology)

配置年次 1

単位数 4 期間 通年

担当者 渡部 雪子

履修可能学科

W F N M

関連資格

教職 心理 産業

到達目標

胎児期から老年期までの心の発達と諸問題

授業計画

前期

第1回：ガイダンス

第2～3回：生物進化のなかでのヒト

第4～5回：遺伝と環境

第6～7回：胎児・新生児期の発達

第8～10回：乳幼児の発達

第11～13回：児童期の発達

第14～15回：まとめ

後期

第1回：ガイダンス

第2～3回：発達障害

第4～5回：児童期の課題

第6～8回：思春期・青年期の課題

第9～11回：成人期の課題

第12～13回：老年期の心身の変化

第14～15回：ヒトの発達とは総まとめ

授業概略

この授業では、人の体や心が一生を通してどのように発達してゆくのかを学びます。胎児期から始まり、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期について概説します。とくに乳幼児期については、言語・認知発達、社会性の発達、個性の発達また、親子関係や愛着関係、育児不安、虐待問題など様々な観点から学びます。さらに、発達障害や、発達の中で出会う様々な課題についても学びます。老年期については身体的変化、心理的变化について学びます。

これらの学びを通して、皆さんが将来社会に出て子どもと接したり、障害や病気を持つ人と接したりする時の一助となることを目指します。また、皆さんが育児や介護の担い手になったときに、発達心理学的な観点を持つことができるようにすることが目標です。

授業のあとに、感想や意見を書いて提出していただきます。みなさん自身の体験を通して考えていくような授業への積極的な参加を期待します。

教科書

教科書・参考書は授業中に適宜紹介します

参考書

教科書・参考書は授業中に適宜紹介します

成績評価の方法・基準

1) 出席回数 2) 授業態度 3) 授業内容に対するコメント 4) 期末試験、レポートなどにより総合的に評価します。通年の授業ですが、前期・後期に分けて、一定以上の欠席をした場合、各期末試験の成績から減点を行います。減点

の基準については授業でお話しします。

事前準備学習

「心理学」を履修済みまたは履修中であることが望ましいです(ただしW科の場合)。授業中の私語、携帯電話の使用、音楽を聴く、食事をするなど他の受講生に迷惑となる行為はやめましょう。

20002 人間関係論

(Theory of Human Relations)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 江尻 桂子

履修可能学科

E Pe Pc C W F M

関連資格

教職 心理 産業

到達目標

援助する者と援助される者とのあいだで、より良い人間関係を築くためにはどうしたらよいかを、心理カウンセリングの基礎を学びながら考察してゆく。

授業計画

第1回：この授業の到達目標と概略

第2回：カウンセリングとは

第3回：カウンセリングの基本：傾聴技法(1) 基本姿勢

第4回：カウンセリングの基本：傾聴技法(2) 受容・支持・繰り返し

第5回：カウンセリングの基本：傾聴技法(3) 明確化と質問

第6回：カウンセリングの基本：問題の対処法(1) リファーマー・ケースワークなど

第7回：カウンセリングの基本：問題の対処法(2) スーパービジョン・コンサルテーションなど

第8回：事例検討(1) 友人関係の相談

第9回：事例検討(2) 進路の相談

第10回：事例検討(3) 不登校の相談

第11回：模擬カウンセリング(1)

第12回：模擬カウンセリング(2)

第13回：心理・福祉・医療における人間関係(1) 欲求階層理論から考える対人援助

第14回：心理・福祉・医療における人間関係(2) 地域医療の実際

第15回：より良い人間関係にむけて：総まとめ

授業概略

他者を援助するためには、相手との信頼関係に基づく、より良い人間関係の構築が必要です。そのためには「相手の話に耳を傾ける」ことが大切です。この考えのもと、この授業ではカウンセリングの基本的な手法(傾聴技法・具体的な対応の仕方)を学びながら、人間関係について考えます。学生同士でペアを組んでの模擬カウンセリングや、事例検討をもとに、より良い傾聴、信頼関係の築き方についてディスカッションします。また、視聴覚教材をもとに、福祉や医療における援助の在り方についても学びます。

教科書

授業で使用する資料についてはすべて配布します。

参考書

授業のなかで適宜、紹介します。

成績評価の方法・基準

1) 出席回数、2) 授業態度、3) 授業後に提出するコメント、4) 学期末試験、5) レポート提出状況により評価します。レポート未提出もしくは試験未受験の受講生に対しては、原則として単位を出すことができません。

事前準備学習

模擬カウンセリングやグループディスカッションなど、受講生同士の交流の機会が多い授業です。初対面の人と積極的に交流しようという気持ちをもって授業に臨んで下さ

い。人との交流が苦手という方には受講をお勧めしません。他者の気持ちを理解しようと努力する姿勢があることが受講の条件です。また、「人間関係」がテーマですから、自分自身の抱える人間関係の問題について考える機会があるかもしれません。これらの点を了解の上、受講してください。

備考

履修条件等：「心理学」を履修済みまたは履修中であることが望ましい(←ただし履修可能である学科の場合)。授業中の私語、携帯メールなどは謹んでください。受講生多数の場合、抽選により人数調整を行うことがあります。座席を指定します。

20003 生命倫理 (Bioethics)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 中川 明博

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

教職

到達目標

医療技術の急速な発達によって人間の生と死を人為的にコントロールすることが可能になった。しかしそうした変化は、伝統的な価値観では対処しきれない新たな倫理的問題を引き起こしている。脳死、臓器移植、出生前診断、尊厳死、代理出産などをめぐる問題がその代表的なものである。この講義の目標は、新しい医療技術がどのような倫理問題を引き起こし、それをめぐってどのような議論がなされているのかを知ること、倫理の根本原則にはどのようなものがあるのかを学び、それを説明できるようにすること、そして受講者ひとりひとりが望ましい生と死のあり方について考える力を養うことにある。

授業計画

- 【第1回】 遺伝～遺伝子・DNA・ゲノム
- 【第2回】 生命操作
- 【第3回】 パーソン論～人間とは何か
- 【第4回】 代理母・代理出産
- 【第5回】 お産の社会史～医学化された歴史
- 【第6回】 優生学と社会ダーウィニズム
- 【第7回】 脳死と臓器移植
- 【第8回】 臓器移植の問題点
- 【第9回】 尊厳死と安楽死
- 【第10回】 医者と患者～インフォームド・コンセント
- 【第11回】 キュアとケア
- 【第12回】 キリスト教の生命観
- 【第13回】 仏教の生命観
- 【第14回】 日本人の生命観
- 【第15回】 生命倫理におけるその他の諸問題とまとめ

授業概略

医療技術の発展によって現在どのようなことが可能になっているのか、そしてそこから生じる新たな倫理問題にどのようなものがあるのかを項目ごとに解説し、生命をめぐる諸問題の倫理的な是非を検討していく。倫理問題を考える際に規準となる倫理的な原則についても説明していく。あわせて洋の東西の生命観も取り上げていきたい。必要に応じてDVDも使用する予定。

教科書

生命倫理教育研究協議会『テーマ30生命倫理』教育出版、2008年(改訂3版)、本体900円

参考書

成績評価の方法・基準

学期末試験(100点満点)の素点を、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。ただし無

断欠席1回につき10点、無断遅刻早退1回につき5点を減じる。

事前準備学習

教科書の該当箇所を事前に読んでくること。

備考

就職活動等によって授業を欠席する場合は、必ず連絡すること。

20004 人間と哲学 (Human and Philosophy)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 中川 明博

履修可能学科

E Pe Pc C W F M

関連資格

教職

到達目標

西洋哲学史の中から抽出した重要な哲学説について、それぞれの問題意識、それに対する解答およびその根拠、各々の哲学の意義と問題点を理解し、説明できるようにすることをめざす。また、哲学で論じられている問題について、自ら根源的、批判的に考えることができるようにし、各自の人間観・世界観をより豊かにしていくことを目標とする。

授業計画

- 【第1回】 存在論的哲学(1) ー初期自然哲学者たちの探究
- 【第2回】 存在論的哲学(2) ーソクラテスの愛知
- 【第3回】 存在論的哲学(3) ープラトンのイデア論
- 【第4回】 存在論的哲学(4) ーアリストテレスにおける実体
- 【第5回】 意識論的哲学(1) ーデカルトの主観ー客観図式
- 【第6回】 意識論的哲学(2) ーロックの経験論
- 【第7回】 意識論的哲学(3) ーバークリー、ヒュームによる経験論の展開
- 【第8回】 意識論的哲学(4) ーカントの批判哲学
- 【第9回】 言語論的哲学(1) ーウイトゲンシュタインの写像理論
- 【第10回】 言語論的哲学(2) ーウイトゲンシュタインの言語ゲーム
- 【第11回】 言語論的哲学(3) ー言語行為論
- 【第12回】 現代哲学の諸潮流(1) ー構造主義の考え方
- 【第13回】 現代哲学の諸潮流(2) ー現象学の考え方
- 【第14回】 現代哲学の諸潮流(3) ー実存思想の考え方
- 【第15回】 哲学の意義について、および講義のまとめ

授業概略

この授業では、哲学とはどのような問いを提起し、どのような探究を行う学問なのかを理解するために、西洋哲学における問いの形式を3つの型に分けて考察していく。「真に存在しているものは何か?」を問う存在論的哲学、「私は何を知ることができるのか?」を問う意識論的哲学、「言葉によって私は何を理解しているのか?」を問う言語論的哲学である。それぞれの代表的哲学者を取り上げ、その理路をたどっていく。あわせて現代の重要な哲学の潮流も取り上げ、現在何が議論されているのかを見ていく。哲学的な問いは、ふだん私たちが自明だと思っている事柄の根拠や意味をあらためて問い直す点に特徴がある。この授業を通じて物事を根本的に考えることの大切さと楽しさを学んでもらいたい。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業内で紹介する。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

成績評価の方法・基準

学期末試験（100点満点）の素点を、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。ただし無断欠席1回につき10点、無断遅刻早退1回につき5点を減じる。

事前準備学習

特になし。

備考

就職活動等によって授業を欠席する場合は、必ず連絡すること。

20005 人間と精神保健

(Human and Mental Health)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 木寺 静代

履修可能学科

E Pe Pc C W F N

関連資格

産業

到達目標

「心の健康」に関して広い知識を得ることができる。自らの「心の健康」を保ち、その健康な状態を向上させる知識、方法を理解することができる。
発達障害、統合失調症、うつ病、認知症等の精神疾患の症状、治療、接し方を資料に基づいて説明することができる。

授業計画

- [第1回] 心の健康とはなにか
- [第2回] 精神保健の歴史
- [第3回] 適応と心の健康
- [第4回] 私たちとストレス
- [第5回] 防衛機制と対処行動
- [第6回] 人間の発達と心の健康
- [第7回] 子どもにおける心の問題
- [第8回] 行動上の問題
- [第9回] 発達障害への理解と対応
- [第10回] 思春期における心の問題
- [第11回] 統合失調症への理解と対応
- [第12回] うつ病への理解と対応
- [第13回] 大人における心の問題
- [第14回] 認知症への理解と対応
- [第15回] 心の健康を保つために

授業概略

心の健康とはなにかを、心理学の観点から考えます。心は身体と同じように、傷ついたり、病気になります。受講者と心の健康の保ち方を考えながら、心の病気について学びます。また、障害者への対応も学びます。
はじめて精神保健の授業をとる人を対象とした初心者向きの授業です。

教科書

なし

参考書

徳田克己 他数名著『わかりやすい心の健康学』（文化書房博文社）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

「心の健康」とは何かを考えながら本を読んだり、精神疾患関連のテレビ番組を見ておくと、講義の理解が深まります。

20006 人権と教育

(Human Rights and Education)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 博

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

人権の中でも受講者に身近な学校生活と生徒の人権を市民学習の視点から論じていきます。

受講者の声を聞き、具体的な事実に基づきながら進めていきますので、自分の意見を持つことができるようになります。

授業計画

- 第1回 ガイダンスとアンケート（受講者の関心と問題意識）の記入
- 第2回 アンケートの報告 人権の歴史と現状
- 第3回 人権教育の現状と課題
- 第4回 人権をめぐる誤解と歪曲
- 第5回 教師の人権理解の壁
- 第6回 生活の中の実践語としての人権
- 第7回 市民学習（1）市民とは何か 市民社会とは何か 公共とは何か
- 第8回 市民学習（2）社会参加活動・ボランティア活動
- 第9回 学校と市民社会（1）学校と規則
- 第10回 学校と市民社会（2）問題行動の理解と解決システム
- 第11回 学校と市民社会（3）規則の適用・運用とリーガルマインド
- 第12回 市民法学習（1）平和に生きる権利の学習と実践
- 第13回 市民法学習（2）環境権の理解と自分の生活
- 第14回 市民法学習（3）地域主権の学習
- 第15回 講義のまとめ

授業概略

人権および人権教育の全体にかかわる部分、市民社会における人権の実現にかかわる部分、学校の実践の市民性にかかわる部分、市民法学習にかかわる部分と、大きく4部構成で説明していきます。

教科書

資料を配布します。

参考書

テーマにふさわしい参考書は紹介します。

成績評価の方法・基準

出席、アンケート、宿題、意見発表、試験を総合して判断します。

事前準備学習

ご自分の学校体験を振り返ってみてください。できれば当時の生徒手帳を探して、読んでみてください。

20007 対人援助の基礎知識

(Basics of Interpersonal Assistance)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 大築 明生

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

「人を支える姿勢と方法」を学ぶことを通して、自己理解を深め、対人援助の力量を身につけていく。

特に、「話を真剣に聴いて、その人を理解しようと努める」ことが、あらゆる援助の基本であることを、さまざまな

テーマや事例を通して理解する。

授業計画

- 第1回～3回 援助のイメージ
- 第4回 心の構造と防衛機制
- 第5回 症状へのまなざし
- 第6回 心の傷の回復
- 第7回 対人援助の実際
- 第8回 ライフサイクルⅠ
- 第9回 ライフサイクルⅡ
- 第10回 内なる自己との対話
- 第11回 質問に答える
- 第12回 性の多様性
- 第13回 自立のイメージ
- 第14回 職場のメンタルヘルス
- 第15回 まとめとテスト

授業概略

授業内容としては、対人援助の基本である「話を聴く、相手を理解する」ことの中身と方法を紹介した上で、人間理解や対人援助能力を実践的に深めていくために、(1)うつや心身症などの症状へのまなざし、(2)生と死、心の発達、(3)PTSD、(4)夢の世界、(5)性の多様性、(6)自立とは、(7)職場のメンタルヘルス、などのテーマを取り上げて、一緒に考えていきたいと思っています。

教科書

講師作成のレジュメを使用します。

参考書

必要に応じて授業で紹介します。

成績評価の方法・基準

小テストと定期試験の内容で成績評価を行います。

事前準備学習

これまでの人生で、悩んだこと、苦しかったこと、人に相談したこと、人から相談されたことなどを思い出し、つらい時は人にどのように接してほしいか、あるいは対人援助でむずかしいと思ったことなどを考えて授業に臨んでくれると、授業内容がより身につくと思います。

2008 キリスト教福祉

(Christian Welfare)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 山中 俊克

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

到達目標

社会福祉が対象とする「人」についてのキリスト教的な視点で理解するとともに、キリスト教が社会福祉の発展に与えた影響について理解することができる。

授業計画

- 【第1回】授業のオリエンテーション
- 【第2回】社会福祉とは何か
- 【第3回】キリスト教の信仰の意味
- 【第4回】人間とは何か
- 【第5回】生と死の問題
- 【第6回】キリスト教社会福祉実践者（マザーテレサ）
- 【第7回】キリスト教による人間理解1（ジェンダー）
- 【第8回】キリスト教による人間理解2（子ども）
- 【第9回】キリスト教社会福祉実践者（石井十次）
- 【第10回】キリスト教による人間理解3（障害児・者）
- 【第11回】キリスト教による人間理解4（家族）
- 【第12回】キリスト教信仰による生き方（水野源三）
- 【第13回】キリスト教による人間理解5（高齢者）
- 【第14回】キリスト教と社会
- 【第15回】まとめ

授業概略

社会福祉の歴史的発展の流れをみるときに、キリスト教が与えた影響は非常に大きいといえます。そしてキリスト教の信仰に基づいて生きた人、あるいはキリスト教信仰により社会福祉の実践に携わってきた人びとの生き方に着目することは、社会福祉とキリスト教との関係だけではなく、キリスト教の基礎となっている聖書について学ぶ機会にもなります。

この授業では、まず福祉が対象とする「人」を聖書ではどのようにとらえているのか、キリスト教に基づく人間理解を深めることを目的とします。神の側からみた人間理解といえるでしょう。また、生活していくうえで困難を抱えた人びとを支えたキリスト教社会福祉を実践した人びとののはたらきを通して、生きる意味、他者を支える意味について考察します。

教科書

石居正己・熊澤義宣監修、江藤直純・市川一宏編集 『社会福祉と聖書』 リトン、および聖書。

参考書

志村 真 『イエス・キリスト教の人間観』 角川学芸出版 2008年。

成績評価の方法・基準

出席状況、授業態度、課題レポートの完成度、および定期試験などの総合評価を行います。

事前準備学習

なし。

2009 福祉文化論

(Studies in Welfare Culture)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 富樫 ひとみ

履修可能学科

E Pe Pc C W F M

関連資格

教職

到達目標

私たちの社会生活の中に組み込まれている福祉制度について、概要を説明することができる。
この福祉制度を支える社会の仕組みや福祉文化はどのように発展してきたのかを説明することおよび、社会における福祉的課題を発見することができる。

授業計画

1. 社会福祉の意味
2. 生きるために必要なもの
3. ライフサイクルとライフコース
4. ライフサイクル・ライフコースと社会福祉制度
5. 子どもの養育と社会福祉
6. 健康と社会福祉
7. 失業と社会福祉
8. 加齢と社会福祉
9. 社会福祉制度と対象者
10. 児童への福祉制度
11. 障害者への福祉制度
12. 生活困窮者への福祉制度
13. 高齢者への福祉制度
14. 社会福祉制度を支える仕組み
15. 文化の発展と福祉制度の変遷およびまとめ

授業概略

社会福祉制度が私たちの社会生活の中でどのように機能しているのか、考える力を養います。個人が自立できなくなる場合を想像することによって、どのような援助が必要とされるのか、考えていきます。国家が個人への援助を行うための社会の仕組みも考えていきます。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

教科書

授業で使用する資料については全て配布する。

参考書

なし

成績評価の方法・基準

期末試験を100点満点で素点とします。欠席および遅刻、授業態度を考慮して、総合的に評価します。

事前準備学習

社会における福祉的課題を見つけるつもりで、日頃からニュースに関心を向けてください。

20010 生活経営論

(Life Management)

配置年次 1**単位数** 2 **期間** 前期**担当者** 扇澤 美千子**履修可能学科**

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

- ・家庭生活、社会生活、就業生活などについてさまざまな角度から考える力をつける
- ・自己実現を果たし豊かで充実した生活をするために自分らしいライフスタイルを確立する

授業計画

1. 生活の自立
2. 生活観・価値観の多様性
3. 小家族化
4. 高齢化
5. 家族機能の社会化
6. 生活時間・生活意識
7. 都市化
8. 男女平等
9. 消費者の権利と責任
10. 消費者保護と消費者教育
11. 仕事と結婚
12. 協力する家族生活
13. ライフスタイルの確立
14. よりよい生活経営
15. レポート作成とプレゼンテーション

授業概略

刻々と変化する社会の中で、人間性を回復し、豊かで充実した生活を営み、自己実現を果たしていくことは非常に重要なことです。生活を家庭の中という範囲に限定せず、社会生活や職業生活も含めたトータルなものとして考え、どのように生きるのが望ましいか、自分にとって大切なものは何かといった自分らしいライフスタイルの確立について考え行動する基礎をはぐくむことがこの授業の目標です。授業内容としては、消費生活・環境・仕事・結婚・生活時間・教育といった生活の中の様々な問題を取りあげ、社会がそれらをどうとらえているか、自分達はどう受け止めどう考えていけばいいのかを、講義・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなど様々な形式で検討していきます。

教科書

必要に応じてプリント等を配布

参考書

必要に応じて指示する
成績評価の方法・基準
レポート、授業態度、発表、出席、試験等、総合的に評価する

事前準備学習

必要に応じて指示する

20011 生活経済学

(Life Economics)

配置年次 1**単位数** 2 **期間** 前期**担当者** 浅野 義**履修可能学科**

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

この授業では、私たちの生活に関する経済学的な考え方を習得できます。また、私たちの生活を取り巻く経済的な諸問題を解決していくためには、どのような政策が必要になるのかを考えるための基礎も養うことができます。

授業計画

- 第1回 この授業の到達目標と概略
- 第2回 経済循環
- 第3回 需要と供給
- 第4回 市場均衡
- 第5回 市場の失敗
- 第6回 不確実性と不完全情報
- 第7回 生活経済の仕組み
- 第8回 家庭経済と国民経済
- 第9回 消費行動
- 第10回 消費者問題と消費者保護
- 第11回 環境問題と消費行動
- 第12回 少子高齢化
- 第13回 生活保障（1）年金
- 第14回 生活保障（2）医療
- 第15回 生活保障（3）介護

授業概略

この授業は、講義形式で行います。少子化・高齢化の急速な進行や環境問題の深刻化などさまざまな社会状況の変化のなかで、私たちの生活も大きく変容し、これに対応して人間生活の経済的な側面である生活経済のあり方も転換期を迎えています。この授業では、経済学の基礎理論を理解し、生活経済の基本的な枠組みを把握した上で、家庭の経済生活、消費行動と意思決定、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境、生活保障のそれぞれについて、現代の社会状況の変化を踏まえつつ具体的な事例の検討を通じてその理解を深めていくことにします。

教科書

高橋伸彰著『少子高齢化の死角』 ミネルヴァ書房 2005年

参考書

授業の進行に合わせて紹介します。
成績評価の方法・基準
最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

20012 生活と国際経済 a

(Life and International Economy a)

配置年次 1**単位数** 2 **期間** 後期**担当者** 浅野 義**履修可能学科**

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

私たちの生活が国際経済関係からどのような影響を受けて

いるのかを、「理論」、「実態」、「歴史」の三つの観点から学ぶことで、グローバリゼーションの内実を理解するための手掛かりを得ることができます。また、グローバリゼーションのマイナス面を解消するためには、どのような「政策」が必要になるのかを考えるための基礎も養うことができます。

授業計画

- 第1回 この授業の到達目標と概略、グローバリゼーションとは何か
- 第2回 比較優位と国際貿易
- 第3回 自由貿易の利益
- 第4回 国際資本移動の利益
- 第5回 国際労働力移動の利益
- 第6回 WTOの経済学
- 第7回 為替レート決定の理論
- 第8回 ワシントン・コンセンサス
- 第9回 貿易政策（1）輸入関税の効果
- 第10回 貿易政策（2）FTA（自由貿易協定）
- 第11回 マクロ経済政策のトリレンマ
- 第12回 移民労働者の送り出し国と受け入れ国
- 第13回 事例（1）WTOと国際基準
- 第14回 事例（2）アジアとラテンアメリカの通貨危機
- 第15回 事例（3）日本とアメリカの外国人労働者問題

授業概略

この授業は国際経済学の入門講座で、講義形式で行います。グローバリゼーションが進行するなかで、世界の多くの人たちの生活は国際経済関係からますます多くの影響を受けるようになってきています。その影響にはプラス面もありますが、マイナス面も多く見られます。この授業では、国際経済学の基礎的な理論を理解したうえで、私たちの生活がグローバリゼーションによってどのような影響を受けているのかを、先進国と開発途上国の具体的な事例を取り上げて考えていきます。

教科書

石川城太・菊地徹・椋寛著『国際経済学をつかむ』有斐閣 2007年

参考書

授業の進行に合わせて紹介します。

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

2012 生活と国際経済 b (Life and International Economy b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 井上 詔三

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

市場の機構を理解したうえで、国際経済学の基礎概念になり、経済のグローバル化が私たちの生活にもたらすベネフィットとコストを考察する能力を身につけます。

授業計画

- 第1回 生活者の視点と経済学
- 第2回 市場の機構
- 第3回 日本の物価
- 第4回 貿易の動向
- 第5回 食料自給率
- 第6回 貿易の理論1

第7回 貿易の理論2

第8回 中間ふりかえり

第9回 世界貿易機関とブロック経済

第10回 東南アジア経済の躍進と南アジア

第11回 飛躍する中国経済

第12回 日本経済のグローバル化

第13回 貿易と直接投資

第14回 豊かさとは

第15回 まとめ

授業概略

フランス製のブランド品は、パリや東京で買うよりローマで買うほうが安い場合があるのはなぜでしょうか。私たちが口にできるかなりの食材は、中国初め海外から取り寄せられていて、国産ではありません。政治上の国境を越えた経済活動が効率よく機能しなければ、私たちの生活はすぐにいきづまるほど、日本経済は世界経済に組み込まれていません。世界市場における競争力の源泉は何に依存するのでしょうか。国際経済という国レベルの経済活動を見るばかりでなく、企業レベルのミクロの経済パフォーマンスを見る目を養うことが欠かせないことを学びます。

教科書

特定の教科書は指定しません。授業で使う資料は印刷して配布するか、IC-UNIPA上にアップロードします。

参考書

Krugman, Paul R. & Obstfeld, Maurice 著 / 吉田和男監訳. 2002. 『国際経済学』(エコノミスト社), 『通商白書』(各年). ホームページ <http://www.meti.go.jp/> 他.

Gerber, J. 2010. International Economics 5th ed, Pearson.

成績評価の方法・基準

クラスでの参加、ミニ課題、期末レポートの総合評価による

事前準備学習

経済と人間、生活経済学などを履修していることが望ましい。

2013 社会学 a (Sociology a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 森 謙二

履修可能学科

W F

関連資格

教職 社福士 福祉主

到達目標

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。
社会科学的な考え方ができること。

授業計画

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造—市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開—民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）
- 9 情報化社会の展開とIT
- 10 グローバル化の背景
- 11 近代家族について
- 12 個人化する家族
- 13 〈いのち〉と家族
- 14 福祉国家の危機とリスク社会—福祉レジューム論
- 15 まとめ

授業概略

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きている

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

のか、これが全体を通じてのテーマになります。
近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、
家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義
をしたいと思います。
どのような仕組みの社会で生きていくのか、どのように社
会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何
ができるのか、このような問題を考えながら話を進めてい
きたい。

授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

教科書

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘
文堂）

参考書

授業中に指示。

成績評価の方法・基準

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。
ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

事前準備学習

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授
業が終わったら、ノートの整理を。

20013 社会学 b (Sociology b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 森 謙二

履修可能学科

W F

関連資格

教職 社福士 福祉主

到達目標

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。
社会科学的な考え方ができること。

授業計画

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造—市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開—民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）
- 9 情報化社会の展開とIT
- 10 グローバル化の背景
- 11 近代家族について
- 12 個人化する家族
- 13 〈いのち〉と家族
- 14 福祉国家の危機とリスク社会—福祉レジューム論
- 15 まとめ

授業概略

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きている
のか、これが全体を通じてのテーマになります。
近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、
家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義
をしたいと思います。
どのような仕組みの社会で生きていくのか、どのように社
会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何
ができるのか、このような問題を考えながら話を進めてい
きたい。
授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

教科書

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘
文堂）

参考書

授業中に指示。

成績評価の方法・基準

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。
ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

事前準備学習

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授
業が終わったら、ノートの整理を。

20014 法学 a (Law a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 博

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

教職 福祉主

到達目標

学生にとって身近である法律のテーマを取り上げていきま
す。生活の視点から、具体的に考えることができます。法
律的なものの見方、考え方を身につけることができます。

授業計画

- 第1回 ガイダンスとアンケートの記入
- 第2回 法とは何か
- 第3回 マナー、モラル、ルール、規範を考える
- 第4回 「六法」の見方、使い方
- 第5回 児童虐待防止法と児童福祉法
- 第6回 子どものトラブルと法律
- 第7回 親子と法律
- 第8回 夫婦（結婚・離婚）と法律
- 第9回 高齢社会と法律（1）扶養と介護
- 第10回 高齢社会と法律（2）相続と遺言
- 第11回 医療と法律（1）患者の自己決定権
- 第12回 医療と法律（2）臓器移植法
- 第13回 医療と法律（3）「代理母」裁判
- 第14回 医療と法律（4）安楽死と尊厳死
- 第15回 全体のまとめ

授業概略

社会に起こる事象について、法律はどう考え、解決しよう
とするのか、法の基本を理解します。そして、誰もが直面
する親子、夫婦、医療などのテーマを例に、わかりやすく
解説します。

教科書

『新六法』（三省堂）を使います。
資料を配布しますので、大切に保存してください。試験の
際必要になります。

参考書

各テーマの参考となる本などは、テーマを取り上げた際に
紹介します。

成績評価の方法・基準

出席、アンケート、宿題、試験などを総合的に判断します。

事前準備学習

社会に起こっているトラブル・事件などに関心を持つこと
が大切です。生活の中で、社会の出来事に敏感になり、問
題意識を持つことが事前の勉強です。

備考

受講生が多い科目ですので、私語については厳しく対処し
ます。

20014 法学 b (Law b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 古屋 等

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

教職 福祉主

到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件 I
- 7 犯罪の成立要件 II
- 8 刑事手続の基本原理
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法 I
- 12 財産関係と法 II
- 13 家族関係と法 I
- 14 家族関係と法 II
- 15 まとめ・テスト

授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

教科書

上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕(成文堂) 2500円＋税

参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

20014 法学 c
(Law c)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 古屋 等

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

教職 福祉主

到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件 I
- 7 犯罪の成立要件 II
- 8 刑事手続の基本原理
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法 I
- 12 財産関係と法 II
- 13 家族関係と法 I
- 14 家族関係と法 II
- 15 まとめ・テスト

授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

教科書

上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕(成文堂) 2500円＋税

参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

20015 生活と政治

(Life and Politics)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

E Pe Pc C W F N

関連資格

教職

到達目標

この講義は、小学校、中学校、高等学校における、社会科、公民科の教科内容中の特に政治の守備範囲を押さえた上で講義を組み立てます。本講義を通じて、政治と政治学の基礎について学ぶとともに、随時、時事問題を折り込んで、現代社会が抱える具体的な問題、課題とそれらを分析する諸理論について講述し、学生諸君に社会科学の視野を開く機会となるよう配慮します。

授業計画

全15回の講義を予定していますが、それを3つの部分で構成します。最初の2回は、社会科学入門、本論として政治の基本について、12回、最後の一回をまとめとします。

第1回 この講義の狙い(含む 社会科 公民科を学ぶ目的について)

第2回 社会科学とはなにか(含む 現代社会と人間の主体性)

第3回 政治と政治学(含む 民主制と政治参加)

第4回 政治権力と人間(含む 法と人権)

第5回 国民 国家 政府(含む 立法 行政 司法のしくみ)

第6回 個人と憲法(含む 日本国憲法のしくみ 国民主権 基本的人権 平和主義)

第7回 民主主義と権力分立(含む 三権分立)

第8回 政党(含む 選挙制度)

第9回 政治イデオロギー(含む 政治思想と政治制度)

第10回 政治文化(含む エリートと大衆 カリスマとリーダーシップ)

第11回 世論と投票行動(含む マス・メディア論)

第12回 公共政策(含む 地方自治と地方分権)

第13回 安全保障と外交(含む 主権とナショナリズム)

第14回 国際関係と国連(含む 国際社会と人間)

第15回 まとめ

授業概略

社会科学を学ぶに際して、学生が最初に出会うのが、ドイツの社会学者 M・ウェーバーによる社会科学の方法論「価値自由」です。この言葉の意味は、価値評価から、距離を意識的にとることを意味します。政治現象を対象として研究する際、研究者の政治的立場、主義や信条によって、評価が違って来る、そうした可能性が常につきまといまいます。しかし、研究の結果が、研究者の主観によって影響されているとしたら、政治学という学問の科学的な根拠は失われてしまいます。そこで、ウェーバーは、客観的事実の探求を理想とした場合にも、あるべきものの探求という主観的評価から離れることはできないということを言い、だからこそ、研究者は自らの依って立つ価値、主観を自覚し、それに囚われない認識を目指すことの大切さを指摘したのです。特に将来、教員として教壇に立つ人にとっては、このことへの理解が大切です。

教科書

教科書は使用しません。手作りのプリント、レジュメを配布します。

参考書

参考書、文献については、授業中、項目ごとに指示します。初学者は、以下の本を参考にするとよろしいでしょう。小学校 中学校 社会科教科書 高等学校 公民の教科書 岩波ジュニア選書

「政治のしくみがわかる本」その他 社会、政治、経済、関連多数。

なお、少しレベルの高いものを読みたい人には、以下の本をガイドにするとよいでしょう。

文春新書 「東大教師が新入生にすすめる本」 1 2

成績評価の方法・基準

毎回、質問票の形で出欠をとります。講義内容に関する良い質問があれば、成績に加味します。

試験は、テーマを指定した論文考查になります。

事前準備学習

参考書を読んでおいてください。日常、新聞は必読。ただし、一紙ではなく、最低二紙を比較しながら読むことが大切です。

備考

一方通行の講義にはしたくないので、学生諸君からの質問とそれへの回答、つまり教室での対話を大切にしたいと思います。

20016 現代社会思想

(Modern Social Thought)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

現代社会の全体像について、大づかみに把握することを目指す、入門講座です。社会思想にとっての問題は、結局、個人の自律性と社会(集団)の共同性をどう両立させるか、その条件と課題を考えることです。さまざまな条件や制約の中で、人がどう生きるか、どう考えているか、眼を開く機会を提供したいと思います。本講義は、その意味で現代社会論であると同時に、現代に生きるわれわれの自画像を描く、そんな場となるでしょう。

授業計画

15回の講義が予定され、その最初の3回ぐらいは序論です。まず、大学の4年間をどう過ごすか、基本的な情報を確認しておく必要があります。次に視野を広げて、現代に生きる人間の内面世界について考えてもらいますが、その際、自分自身についての省察もできるでしょう。その上で、人間の組織と集団、社会と国家、法と正義と道徳、といった問題を扱います。講義後半で、思想、哲学を少し齧ることになるでしょう。

第1回 序論 この講義の狙い

第2回 序論 現代社会と人間

第3回 序論 理論 哲学 思想 イデオロギー

第4回 自己と他者について

第5回 物語りについて

第6回 共同幻想と集団 組織と人間

第7回 差別について

第8回 コミュニティーと共同について

第9回 国家と国際社会について

第10回 グローバリズム

第11回 西欧近代社会の思想と哲学 I

第12回 西欧近代社会の思想と哲学 II

第13回 近代を超えて

第14回 現代思想

第15回 まとめ

授業概略

まず、社会科学入門講座を序論として展開します。人間の内面について考えることをきっかけとして、徐々に視野を拡げ、外側、環境(自然環境、社会環境、文化環境)の具体的なあり様にまで、学生諸君の知的関心を引き出す機会

とします。心理学 社会科学、そして思想、哲学、と、この講義の取り扱う範囲は相当広くなりますが、時事問題等に触れながら、できるだけ分かりやすい現代社会論、現代思想論、の入門講座をめざします。

教科書

教科書は使用しません。手作りのプリント、レジュメを配布しますので、全資料を保存し、それを核としてノートを作ってください。

参考書

授業時にそれぞれ項目ごとに指示します。初学者の場合、参考書については、以下の本をガイドにすると、よろしいでしょう。岩波ジュニア選書「社会を生きるための教科書」「ヨーロッパ思想入門」「フランス革命 歴史における毒薬」「平和をつくった世界の20人」等々。

なお、少しレベルの高いものを読みたい人には、以下の本をガイドにしてください。

文春新書 「東大教師が新入生にすすめる本」 1 2。

成績評価の方法・基準

毎回、出欠を質問票を配る形で取ります。講義内容に関する良い質問については、成績に加味します。試験は、テーマを指定した論文考査になります。

事前準備学習

参考書を読んでおいてください。そして、日常、新聞については必読。但し、一紙のみではなく、せめて二紙の比較読みが大切です。

備考

一方通行の講義にはしたくないので、学生諸君からの質問とそれへの回答、つまり教室での対話を工夫したいと思います。

20017 高齢者生活論

(Life of the Aged)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 山中 俊克

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職 社教

到達目標

高齢者のからだところのしくみに関する基礎知識を習得することにより、高齢者の尊厳が保たれ、高齢者が必要とする生活支援について説明できる。

授業計画

【第01回】 授業のオリエンテーション

【第02回】 ところのしくみの理解(1) (人間の欲求の基本的理解)

【第03回】 ところのしくみの理解(2) (ところのしくみの基礎)

【第04回】 からだのしくみの理解(1) (生命の維持・恒常のしくみ)

【第05回】 からだのしくみの理解(2) (人体部位、ボディメカニクス、関節の可動域)

【第06回】 身じたくに関連したところとからだのしくみ

【第07回】 移動に関連したところとからだのしくみ

【第08回】 食事に関連したところとからだのしくみ

【第09回】 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ

【第10回】 排泄に関連したところとからだのしくみ

【第11回】 睡眠に関連したところとからだのしくみ

【第12回】 死にゆく人のところとからだのしくみ

【第13回】 緊急時に関連したところとからだのしくみ

【第14回】 他職種との連携と協働

【第15回】 まとめ

授業概略

我が国は世界有数の長寿国となり、長い高齢期に生きがいを持ちながら、どのように過ごすのかということは私たちの共通した課題である。そして、長寿とともに介護を必要とする高齢者数も増加しており、高齢期の介護というのが社会的な課題にもなっている。

このような状況において高齢者を生活者としてとらえ、自立した生活を支えていくためには、高齢者の日常生活に関する知識も重要となる。特に介護の実践においては日常生活での介護を必要とする高齢者の心理的・身体的側面を理解して支援していくことが求められる。そのため、食事、入浴、排泄など具体的生活場面における高齢者のこころとからだのしくみや相互作用について基礎的な学習をすることにより、介護の実践に必要な知識を習得する。また、高齢者の生活を地域において支援していくために必要となる介護職と他職種との連携についても学ぶ。

教科書

新・介護福祉士養成講座 介護福祉士養成校講座編集委員会編集 第2版 『こころとからだのしくみ』 中央法規、2009年。

参考書

授業において随時指示します。

成績評価の方法・基準

授業の出席および参加状況、課題、および定期試験による総合評価を行います。

事前準備学習

なし

20018 女性学

(Women Studies)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

E Pe Pc C W F N

関連資格

教職 社教

到達目標

現代社会とそこに生きる人間について関心のある人であれば誰でも、たとえその人の専門領域が違っているにしても、また、方法のあるいは生き方の違いがあるにしても、「フェミニズムと女性学あるいはジェンダースタディーズ」に多かれ少なかれ関心をもっていることでしょう。この領域は、「性、性差、性差別」、といった概念を取り上げますし、それとの関連で、人間の生き方、あり方、人間の周りをとりまく諸環境、家庭、学校、職場、地域、国家、社会などのあり様まで、広範な領域にわたって、問題関心を展開しています。したがって、この世界をどう生きるか考える人にとって、この領域は避けては通れないのです。もちろん、女性であると男性であるとを問わずです。しかし、それと同時に、「フェミニズムと女性学あるいはジェンダースタディーズ」をめぐっては、まさに百家争鳴、さまざまな立場、主張、方法、理論、そして運動があり政策がありますから、この領域について、どこから手をつけていくか迷うような状況です。この講義では、まずそのことを意識しながら、この領域について、細部に囚われずに概説したいと考えています。この講義を通じて、受講生の皆さんの生きている現実の姿が、色々な角度から見えてくるでしょうし、将来、どう生きていくか、考える機会になるでしょう。

授業計画

全15回の講義を以下の予定で進めますが、順番等、変更されることがあります。

第1回 この講義について (フェミニズム 女性学 ジェンダースタディーズ)

- 第2回 女性性をめぐる現象学（性、性差、性差別）
 第3回 女性について（西洋 前近代の女性観 近代社会の女性観）
 第4回 女性について（キリスト教の女性観 イスラーム思想の女性観）
 第5回 女性について（仏教の女性観 儒教の女性観 日本における女性観）
 第6回 差別について（心理学の立場から 社会科学の立場から 思想、哲学の立場から）
 第7回 フェミニズム運動（運動の歴史）
 第8回 女性学あるいはジェンダースタディーズ 成立とその背景
 第9回 女性学あるいはジェンダースタディーズ さまざまな理論Ⅰ
 第10回 女性学あるいはジェンダースタディーズ さまざまな理論Ⅱ
 第11回 女性と法律 女性と経済
 第12回 女性と政治 女性と労働
 第13回 女性政策
 第14回 女性をめぐる国際社会の動き
 第15回 まとめ

授業概略

まず、この領域の独特の性格について解説します。次に、女性観の歴史を辿ります。さらに、女性解放の運動の歴史を見ます。差別について、心理学、社会科学、思想と哲学それぞれの領域での知見を紹介し、その原理的解剖を試みます。そのうえで、女性学あるいはジェンダースタディーズが成立する経緯、あるいはその背景を確認し、さらに、発展してきた学問としての流れを探ります。また、女性解放運動の流れについて見ます。その後、日本あるいは日本をとりまく国際社会において、女性はどうな環境下で、生きているか、生きていくことになるか、それを实地に、探ってみます。

教科書

教科書は使いません。手作りのプリント、レジュメを配布します。受講生諸君は、全資料を保存し、それらを核として、ご自分のノートを作成してください。

参考書

参考文献については、講義の際に、指示します。なお、以下の本は、初学者向きです。

「女性の権利—ハンドブック女性差別撤廃条約」岩波ジュニア新書

「女性学・男性学—ジェンダー論入門」有斐閣アルマ

「女性学入門—ジェンダーで社会と人生を考える」

MINERVA TEXT LIBRARY

なお、少しレベルの高い参考書を読みたい人には、以下の本が便利です。

文春新書「東大教師が新入生にすすめる本」 1 2

成績評価の方法・基準

毎回、質問票を配る形で出欠をとります。講義内容に関する良い質問があれば、成績に加味します。試験はテーマを指定した論文考査になります。

事前準備学習

参考書を読んでおいてください。日常、新聞は必読。ただし、一紙にかぎらず、二紙以上を比較しながら読んでください。

備考

シラバスは、あくまで、目安です。順番の変更等がありますので、承知しておいてください。なお、一方通行の講義にはしたくないので、受講生諸君の質問など、大切にし、教室での対話に工夫したいと思います。

20019 現代家族論

(Studies on Modern Family)

配置年次 1
 単位数 2 期間 後期
 担当者 望月 ミチ
 履修可能学科
 E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職 社教

到達目標

1. 家族についての理解を深め、さらに各自が家族についての自己の考えを構築していくこと。
2. 社会変動に伴う家族の変化すなわち少子化、高齢化、家族の個人化など現代家族の動向を踏まえて、子どもの養育や高齢者介護、社会的支援の問題など、どのような家族問題が生じているかを解明すること。

授業計画

- 第1回 家族とは何か
 第2回 家族の定義
 第3回 家族の基準と範囲
 第4回 家族の基礎的概念
 第5回 家族の法律
 第6回 家族の実態
 第7回 配偶者選択と結婚
 第8回 家族の役割構造
 第9回 現代の親子関係
 第10回 親子に関する法律
 第11回 青年期の家族関係
 第12回 家族の変化と高齢者
 第13回 ライフコースと家族
 第14回 これからの家族
 第15回 現代家族について・まとめ

授業概略

社会変動に伴う家族の変化すなわち少子化、高齢化、家族の個人化など現代家族の動向を踏まえて、子どもの養育や高齢者介護、社会的支援の問題など、どのような家族問題が生じているかを解明 することによって、家族についての理解を深め、さらに各自が家族についての自己の考えを構築していくことをめざす予定です。

教科書

授業時に指示します。必要に応じ印刷教材を配付します。

参考書

授業時に随時紹介します。

成績評価の方法・基準

出席状況および授業時の小テストや小レポート、定期試験またはレポートによる総合評価を予定しています。

事前準備学習

授業時に指示します。

20020 環境生態学

(Environmental Ecology)

配置年次 1
 単位数 2 期間 後期
 担当者 北 脩
 履修可能学科
 E Pe Pc C W F N

関連資格

到達目標

我々の身の回りにある様々な化学物質の人に対する影響や生態系に及ぼす影響について理解し、化学物質の安全性について関心をもつことができる。

授業計画

- 1～5、化学物質についての基本的事項の理解
 ・無機物と有機物

- ・意図的化学品と非意図的化学品
- ・化学品の生態内動態
- ・化学品の毒性評価
- 6～9、界面活性剤の生態影響
 - ・界面活性剤の動物影響
 - ・界面活性剤の植物影響
- 10～14、化学品による環境汚染
 - ・ダイオキシン類の汚染と生物影響
 - ・内分泌攪乱化学品の汚染と生物影響
- 15、まとめ

授業概略

人類は、生活の利便性・快適性を求めて多種多様な化学品を作り出し、最終的にはそれらの化学品を環境中に放出してきた。近年の様々な環境問題はまさにそのことによつて生じている。

授業では問題を化学品の生物影響に絞つて検討するが、理解を確かなものにするために可能な範囲で実験・観察を組み込んでいく。ここでの実験対象化学品としては生活の中に深く入り込んでいる界面活性剤を予定している。界面活性剤は石鹼や洗剤としてはもちろん食品の中にもさまざまな目的を持って添加されている。

教科書

必要な資料は授業時に配布します。

参考書

随時紹介します。

成績評価の方法・基準

レポート、各種提出物、期末試験および出席状況など総合的に評価します。

事前準備学習

高等学校で履修した化学 I の教科書に目を通しておくと授業が理解しやすいでしょう。

現代のわたしたちは忙しく、目先のことしか見えない現実がある。環境のこと、日本と世界で起きていること、その経緯など、あまりにも複雑多様でわかりにくい。しかも人は忘れやすく、自分に都合の悪いことは見て見ぬ振りができる存在でもある。

しかし生活スタイルの過去100年間の変化は、質量共にあまりにも大きく、地域に根ざした伝統的生活スタイルが失われた。そして100年前にはまったく考えられなかったことだが、今ではわたしたちの日々の食卓が世界と繋がっている時代になった。

この状況が今後も続くのか。持続可能な生活を実現する鍵は、どこにあるのか。

だからこそ変化という時間方向の探索と合わせて、わたしたちの住む世界とここ茨城に軸足を置いて、食を通して、人と環境の関係を探してみたい。

教科書

なし

参考書

授業内容を深めるために、必要な参考書、ホームページ等を紹介する

成績評価の方法・基準

期末のレポートによる

事前準備学習

なし

2021 生活と自然環境

(Life and Natural Environment)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 飯田 利明

履修可能学科

E Pe Pc C W F

関連資格

到達目標

食を通して、現代の人の生活と自然環境の関係を考えることができる。

環境の中でのこれからの社会のあり方について、自分なりに考える基礎的な知識を持つことができる。

授業計画

1. はじめに
2. 50年前の茨城と日本の食生活
3. 身近なLost World
4. 石油に依存した経済成長と人口爆発
5. 大量生産、大量消費、大量廃棄社会＝都市化した人類
6. 食料生産の増加と農業保護政策による低価格化
7. 過剰殺物を利用した肉食とバイオ燃料
8. 環境の過剰利用と環境汚染
9. 気候変動と食料生産 水と気温
10. 生産現場では 石油依存農業と緑の革命
11. 慣行栽培と有機栽培 「有機農業推進法」
12. 遺伝子組み換え作物の現状
13. 都市を支える食の外部化とファストフード化
14. 捨てられる「食品」と食料自給率
15. 人は何を食べて生きるのか

授業概略

わたしたちが生きていくのに必要不可欠な「衣食住」は、すべて回りの自然環境から産み出されている。この授業では、中でも日々欠かせない「食」を中心として考えてみたい。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外